

## 参考資料 5

### 平成30年度 第148回 新潟市農業振興地域整備審査会 議事概要

日 時： 平成30年12月26日（水） 午後2時～3時30分

場 所： 本館 第2委員会室

出席者： 新潟市農業振興地域整備審議会委員 平泉委員，久川委員，和泉委員，石塚委員，  
鎌田委員，和田委員，齋藤博文委員，  
大野委員，高橋委員，梨本委員，北上委員，  
齋藤こずえ委員，田中委員，神田委員

事務局 農林政策課長，農林政策課長補佐，農業活性化研究センター所長，農村整備・水産課長，ニューフードバレー特区課長，食と花の推進課長，食と花の推進課長補佐，中央農業委員会事務局長，北区産業振興課長，江南区産業振興課長補佐，秋葉区産業振興課長補佐，南区産業振興課長，南区産業振興課山田係長，西区農政商工課長，西蒲区産業観光課長

#### 1 開会

○全委員14名全員の出席により、「新潟市農業振興地域整備審議会規則」第5条第2項の規定による定足（過半数）を満たすことを確認

#### 2 あいさつ

小林農林政策課長（農林水産部長欠席のため挨拶文を代読）

#### 3 議事

##### (1) 報告

##### ① 農業構想の進捗状況について

(和田委員) ⑤新規就農者数について。毎年60人以上の方が新規就農している報告があったが、この方々全員が継続されているのか。市として継続率は調べているのか、また離農する場合の理由はどういった理由か。

⑩農業サポーター制度について。当制度は平成30年度予算において一旦廃止決定になった理由と、平成30年度中において当事業が復活した経緯を教えて欲しい。また、市は今後の方針をどのように考えているのか。

(事務局) ⑤年次ごとに離農者は4～5人いるが、継続率は90%として理解している。離農理由は、仕事としての農業が本人の意向と合わないと聞いています。

⑩今年（2018年）3月まで食育・花育センターが農業サポーター制度を所管（現在は食と花の推進課）。平成29年度の事業見直しの中で当制度の廃止を決定。廃止理由は農家の作業計画表・予定表の郵送料について

て予算化できなかつた点が主。しかし、今年4月から、当制度の関係者から制度を継続して欲しいという意見を多く受けたことから、作業計画表を郵送する等の作業はできないが、ホームページ等を活用して農業サポーターと農家の仲介を市が担い、予算化しない工夫をしたうえで、制度を継続することとなった。今後は、当年度と同様のやり方であれば継続していけると考えている。また、引き続き農業サポーターを募集しながらスムーズなマッチングができるように努めていきたい。

(和田委員) ⑪に追加で質問。予算上の理由が大きかったと認識しているのか。

(事務局) 予算だけではないが、食育・花育センターに指定管理者制度を導入することもあり、一旦、制度を廃止という判断に至った。

(和田委員) 郵送料をホームページ等活用することでなんとかなるということで制度が復活したということか。農業サポーターをしているものとして郵送料のためだけに廃止されたり復活したり、関係者を振り回すような制度として市がとらえているように思えるのは残念。

(事務局) 従来方式を固持せず、ホームページ、SNSが発達したなかでよりやりやすい方法を考えていきたい。

(和田委員) それでは新潟市にとっての農業サポーターの位置づけとは。

(事務局) 農家の方からしてみれば労働力という面もあるが、都市部の普段農業に係っていない市民の方が農業に触れ合える機会を提供していく面でも大切な事業だと考えている。

(鎌田委員) 目標の見直し、修正を考えているのか。

(事務局) 市長も変わり考え方も変わってくるなかで中間的に評価して見直しが必要な部分は見直しを行なっていく予定。

(石塚委員) ④認定農業者への農地集積率、⑦ほ場整備率、⑨主食用水稲作付面積に占める化学合成農薬・化学合成肥料を5割以上削減した栽培面積の割合について

構想策定時(平成25年度)と将来目標(平成34年度)を比べると本当に達成できるのか不安なものもある。

また、③学校給食における地場農産物(野菜・果物・きのこ)の利用割合もなかなか進んでおらず達成できるのか気になる。

目標を修正するか目標の達成に向けて施策を施すか考えるのは今年度から来年度にかけてではないかと思う。

(事務局) 目標達成が難しい項目があるのも承知している。それも含め平成31年度スケジュールを立案していく中で、平成31年度秋くらいには平成32年度予算に反映できるよう、スケジュールで見直ししたい。

## ② 農業振興地域整備計画の変更について【新潟・白根】

質問・異議なし

③ アグリプロジェクトの進捗報告について

(和田委員) 稲作に関しては ICT 化が進んでいる。園芸や果樹は人手でないとできない作業も多くある。園芸・果樹の ICT 化は今後どう進んでいくのか。

(事務局) パワーアシストスーツと同様な手首だけをアシストするものもある。安くなれば普及するのではないかと思う。植物工場には収穫機という自動ロボットがあり、判別率は 8 割ほど。トマトやイチゴを収穫するもの。言わないと誰も作ってくれない。

(久川委員) 農業構想時にはなかったが、特区やアグリプロジェクトに関する数値的な目標はあるのか。

(事務局) 農業構想を作成する際、特区の部分を入れるか議論された。しかし、民間の開発は非常に早い。企業ごとにアプローチの仕方も違うため指標目標にするようなものがない。目標設定にこだわらずに新しいものを取り入れていく。

4 その他

(事務局) 今後のスケジュールについて。  
次回は次年度の 6 月頃を予定

5 閉会

【配布資料】

- ・資料 1-1 新潟市農業振興地域整備審議会 委員名簿
- ・資料 1-2 新潟市農業振興地域整備審議会 小委員会委員名簿
- ・資料 2-1 新潟市農業構想の進行管理について
- ・資料 2-2 新潟市農業構想 目標達成状況と評価
- ・資料 3-1 新潟農業振興地域整備計画のうち農用地利用計画の変更について
- ・資料 3-2 白根農業振興地域整備計画のうち農用地利用計画の変更について
- ・冊子 新潟市革新的農業実践特区パンフレット